



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合
 〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
 電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
 (公) 043 (22) 7207 番
 93.6.17 No. 3812

自衛隊は即時全面撤退せよ

反戦闘争の新たな起爆点 — 6.13全国集会から—



▲6日連続闘争をたたかい、そのうえに全国闘争闘う

皇下公園に
 1100名結集

PKO侵略派兵紛砕、即時撤兵、小選挙区制紛砕—改憲阻止、六・一三全国総決起集会は、東京・宮下公園に闘う労働者・市民・学生1100名の結集の下、侵略国家体制紛砕の決意の程を、首都・東京を揺るがす、防衛庁当局への糾弾・弾劾の圧倒的デモを含め示し抜いた。

集会は、反戦共同行動委・佐藤芳夫代表の主催者挨拶により始まり、「空港シンポ」紛砕を全体に明らかにしきつた三里塚芝山連合空港反対同盟をはじめとした連帯の挨拶を受け、続いて反対同盟との車の両輪としてある動労千葉より、隅谷提言弾劾決議(案)が提起され、七・四全国総決起集会への総決起体制とともに全体で採択された。

北海道・沖縄現地闘争の成果—成果を受け登壇した反戦共同行動委・小西代表は、PKO派兵阻止闘争の現段階として、UNTAAC—自衛隊の即時撤兵を求める闘い、同時に改憲に反対する大きな闘いを準備しなければならない。②、改憲への段階決議(安全保障基本法の制定—反対の闘い—六・一三を新たな出発点として、反戦闘争の本格的再構築こそ、これからの日本の歴史的選択が問われるものだと表明した。

日本の情勢を覆す都議選選勝利—長谷川氏再選を勝ち取りろう!

第二部に入り、当面する闘いの最大の焦点となっている、都議選決戦勝利に向けた特別アピールを受け、基調報告(夏から秋への闘争方針)が反戦共同行動委・滝口事務局長(動労千葉)より全体に提起された。

部落解放同盟全国連合会、関西新空港反対運動住民、各地区労組交流センターなどからの決意表明後、中野洋反戦共同行動委代表(動労千葉)が集会のまとめ(要旨別掲)を行い、反戦闘争の新たな第一歩が踏み出された。

独裁体制に道を拓く小選挙区制紛砕、PKO即時撤兵・第三次出兵阻止へ、民衆の底力を示し抜く時が来ている。

佳果△云々として、要旨別掲

九三年という年は、戦後最大の政治決戦の年であり、今日を起点にこの半年間の闘いが開始される。

政治改革(小選挙区制)—改憲の動向



は、支配階級の思惑通りにはなっていない。カンボジア選挙結果は内戦混乱の様相を呈し、二回にわたる派兵の既成事実—「国際貢献」論は、国論を二分し、反戦意識が絡めとられているわけではない。

政治改革—自民党の無様な姿は、分裂・矛盾・脆弱性を孕んでいる。闘いの如何によって状況を大きく揺るがすことができるかと確信できる。具体的には:

(1)、政治改革攻撃を紛砕する闘いの最大の環—都議選・長谷川英憲氏の再選を勝ち取ることであり、勝利が敗北かの力づくの闘いである。権力が真正面から潰しかかかってきている以上、われわれも真正面から対峙しなければならぬ。

(2)、反PKO闘争の強化—傲慢な思想を紛砕し、全面撤退の闘いを巻き起こしていくこと。とりわけ七・四全国総決起集会は、三里塚芝山連合空港反対同盟の三〇年にわたる闘いのポイント的局面—反対同盟解体の攻撃であり、けっしてシンポ攻撃を軽視してはならない。

(3)、労働者を中心とした反戦闘争—反戦共同行動委を、全国津々浦々に創っていくことが求められている。